

平成18年度教育学習方法改善支援経費報告

動物介在活動と療法に関する教育研究プログラム

Azabu animal-assisted therapy and activities educational program

太田光明

麻布大学大学院獣医学研究科動物応用科学専攻

Mitsuaki Ohta

Azabu University Graduate School of Veterinary Science

Abstract: The Azabu animal-assisted therapy, AAT, and activities, AAA, educational program is the 2 years curriculum for people who are interested in AAT and AAA. It has been established for the postgraduate students in April 1, 2002, which was the first endeavor at the universities in the world. The program was developed by Dr. Dennis C. Turner who is the visiting professor at Azabu University. This program is not only admitted as the national license for the AAT/AAA in Switzerland, but also highly estimated the quality and effectiveness by the organizations of the AAT/AAA, especially in Germany, Austria, and the United States of America. The students who completed the course were given the certificates for the AAT/AAA coordinator.

The program has continued for the 4th and 5th students, and now the lectures have been performed on diverse fields as follows: the instruction for the interaction between human and animal, the fundamental knowledge and technique for the AAT/AAA by Dr. Dennis C. Turner; how to learn and study the human and animal interaction by Lynette A. Hart; specific profiles of behavior in highbred dogs by Benjamin L. Hart; the history of human animal interaction, the effects of the human animal interaction on human health, and the behavior problems in dogs by James A. Serpell.

目 的

麻布大学 AAT/AAA 教育プログラム (Azabu animal-assisted therapy and activities educational program) は欧米先進国から 15 年以上の遅れをとっているといわれる我が国の「人と動物の関係学」分野とそれに付随する「AAT/AAA」分野の引き上げおよび充実をめざし、平成 14 年度に開講された。本教育プログラムは本学客員教授である Dennis C. Turner 博士 (スイス) が 1999 年にドイツ語圏向けに完成させたプログラムをわが国の実情に合わせて改変したものである。プログラムを受講し、修了した者は、スイスでは国家資格者として認定され、ドイツ語圏においても国家資格に相当するライセンスを保有す

る者とされる。また、原則として、講義も英語で行われている。本年度 (平成 18 年) も 4 月より動物介在療法 (AAT) ならびに活動 (AAA) に関する教育プログラムを開講しており、昨年度とほぼ同様のカリキュラムを実施した。

方 法

講師陣は、スイス (Dennis C. Turner)、本学 (岩橋和彦、太田光明)、アメリカ合衆国 (James A. Serpell, Benjamin L. Hart, Lynette A. Hart) の 6 名からなり、主に大学院生を対象に実施している。平成 19 年 3 月までに 70 時間の講義、および論文 (レポート作成) を修了した者に対し、Dennis C. Turner、太田光明、および岩橋和彦の署名を付した認定証が発行される。

結果と考察

本教育研究プログラムは平成14年4月より開講しており、平成16年3月に第一期生、平成17年3月には第二期生が2年間のカリキュラムを終え、修了証（認定証）を取得した。また、平成18年3月には、三期生が本教育プログラムを修了した。現在、四期生、および五期生に対する講義および実習が行われている。四期生は、Dennis C. Turner博士らによる講義を終えた。

1. 講義

AAT/AAAについての総括的な講義は、本教育プログラムの開発者であるDennis C. Turner博士によって行われた。倫理・福祉分野で活躍し、動物行動学にも精通しているJames A. Serpell博士から人と動物の関係の歴史および人の健康にもたらす人と動物の相互作用の効果、さらに犬における社会化や行動発達、問題行動について、動物行動学者であるLynette A. Hart博士により、人と動物の関係学の基礎について、Benjamin L. Hart博士から犬種特異的な犬の行動学について、太田光明からは、AAT/AAAの総括的な実状と諸外国の動向に関する講義が行われた。

Dennis C. Turner教授は4月および10月の2回に分けて、計10日間の講義を実施した。

4月は、人と動物の関係をはじめとし、動物が人の健康と福祉に与える効果ならびに動物種による効果の違い、対象者の病状に合致したAATプログラム作成と留意点、動物の適切な選別、ストレスを考慮した飼育・管理方法の講義を行った。また、AAT/AAA実施時における人側、動物側の両側面からの倫理的な問題について講義を行った。

10月はAAT/AAAを実施するため、より具体的なプログラム作成方法、進行方法、社会的サポートとしてのコンパニオンアニマル、学校教育における動物導入の青少年への効果、家畜や野生動物のセラピー効果、AAT/AAAの企画立案と運営について講義した。また、AAT/AAA現場を想定したディスカッショントレーニングも行った。

講義はAAT/AAAに最もよく使用される動物種であるイヌおよびネコをはじめとし、それぞれの動物種の家畜化の歴史、さらにそれらの動物と人の現代に至るまでの関係の変化、行動学的特徴とその比較

に関する講義が実施された。さらに、現在までに行われてきたAATの事実例として自閉症児、心臓疾患患者、LD（学習障害児者）、およびCD（行為傷害）を例に挙げ、それぞれの具体的なAAT/AAAのプログラムとその成果・研究の紹介をした。

James A. Serpell博士による講義は2006年10月に2日間行われ、「人と動物の関係の起源」や「人と動物の相互作用が人の健康にもたらす効果」というテーマで人と動物の関係についてやイヌに関して、その行動発達や幼少期の経験の重要性、問題行動について講義が行われた。本講義では人と動物の関係を、狩猟を行っていた時代までさかのぼり、その移り変わりについて現在まで詳細に述べ、人と動物の関係が人の健康にどのような効果をもたらすのか障害者や健常者、子供、高齢者などさまざまな対象者について講義を行い、AAT/AAAにおいて動物がいかに人の健康に効果をもたらすのかを探った。また、AAT/AAAに最も良く使用される動物種であるイヌに関して、その成長過程における経験の重要性や行動の発達について述べ、問題行動の分類やその原因について研究結果や実体験を基に講義が行われた。

Lynette A. HartならびにBenjamin L. Hart両博士の講義は、2006年5月24日に本学で実施された。Lynette A. Hart博士の講義内容は、「人と動物の関係学の学び方」と題し、人と動物の関係学をこれから学ぶ学生へ向けた総括的な講義が行われた。人と動物の相互関係は大きく分けて野生動物・家畜動物・コンパニオンアニマルの3分野あり、それぞれの分野のなかでも細かくいくつかに分類できる。講義では、欧米諸国を中心としたそれぞれの分野に精通した研究者の紹介や団体・組織、ジャーナルや本、検索方法についての具体例を提示しながら行われた。また、最新の研究課題や介入活動を行う上での有益な効果と問題点を提示され、人と動物の関係を研究していく学生にとって明確に課題を把握することができた。さらに、この分野での仕事やプログラムについて欧米を例に講義された。このように専門的な知識の習得方法とそれらを生かした仕事など興味深い内容の講義であった。

Benjamin L. Hart博士の講義内容は、「犬種特異的な犬の行動学」であった。現在までに犬種は遺伝的に異なることがわかっており、その遺伝型で分類す

ることができる。しかし、遺伝型と行動において相関があり行動学上から分類できるのかどうかの研究は未だほとんど行われていない。本講義は、研究の背景や実験設定の仕方を具体的に講義しながら、Benjamin L. Hart博士が行った犬の遺伝学と行動上の相関についての研究「子犬の遺伝型と成長後での行動」を元に行われた。このような犬の遺伝型と行動について明らかにすることにより補助犬や介在活動で扱う犬の選定など広く応用できることが期待される。

現在まで2年間のプログラムを修了者した第一期生3名（小田切敬子，内山秀彦，辻村愛），第二期生2名（犬竹順子，和賀央子）の計5名の受講生が認定を受けた。この認定書は日本はもちろん，ヨーロッパ，北米でも通用するものであり，社会での活躍が期待される。

尚，認定証を得た5名の課題レポートは，それぞれ質的に高度なものであり，学術雑誌への投稿が予定されている。

要 約

平成14年より行われている動物介在活動・療法（AAT/AAA）教育プログラムは，AAT/AAAに関わる人材を育てるために行動学者，人と動物の関係学の研究者，動物福祉の研究者，獣医師，心理学者，精神科医，心理療法士らにより実施され，2年間で修了する継続的な教育カリキュラムである。

Dennis C. Turner博士（Institute for applied Ethology and Animal Psychology 所長，スイス，本学客員教授）によって開発されたこのプログラムは，1998年に行われたプラハでのIAHAIO（International Association of Human and Animal Interaction Organizations）国際会議で発表され，1999年の4月に第一期生をスイスで迎え，現在はアメリカをはじめ国際的に認知されている。

本学では，Turner博士を含む欧米の教育・研究者と本学教員からなる講師陣を構成し，獣医学部ならびに獣医学研究科の研究教育カリキュラムへの導入を図った。本プログラムの講義は英語で行われ，心理学，人と動物の関係学，人と動物に関する行動学，動物の心理学，AAT/AAAに携わる動物への適切なケア，AAT/AAAに関する倫理や危機管理，患者自身の安全管理，人獣共通感染症，産業動物や野生動物を用いた作業療法など多岐にわたる。さらに，2年の間に英語による課題レポートを提出し，最終試験として英語の口頭試問が行われる。

このプログラムを修了することによって得た認定証は，日本はもちろん，ヨーロッパ各国および北米でも通用するものである。本学においても2004年3月に認定を受けた第一期生に続き二期生，さらに三期生が本プログラムを修了し，認定を受けた。また，現在受講している第四期生，第五期生への修了後の活躍が期待される。